

担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい

投信 なるほど
リッパー

REFINITIV. リフィニティブ



予想分配金提示型って？②

基準価額の変動大きくご注意を

毎月決算型の投資信託について、人気が低迷したとされている人は多いようです。ですが、最近では、以前とは一味違うタイプの毎月決算型に資金が集まっています。「予想分配金提示型」または「分配条件提示型」と呼ばれ、運用成績に応じて収益分配金の額が決まる投信です。決算の回数は年に1回、4回、6回などありますが、12回の毎月決算型が主流。これがジワジワと増えていて、毎月決算型の人気が再燃したようにも見受けられます。

日本で販売されている毎月決算型の株式オープン投信を、予想分配金提示型とそれ以外に分け、毎月の資金動向を棒グラフで示しました。毎月決算型の残高が最も多かった時期は2015年。金融庁が毎月決算型の投信について、そ

の問題点を突いたのは17年です。翌18年は、分配金の金額を引き下げる投信が増えました。ちょうどその頃、バトンタッチをするように予想分配金提示型が増え始め、21年5月末時点の銘柄数は44本です。折れ線グラフ。資金純流入は、17年7月から47カ月連続です。

と、ここまでの説明を読んだみなさんの中には、「やっぱり分配金を毎月もらえるって、いいよね」と飛びつきたくなった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

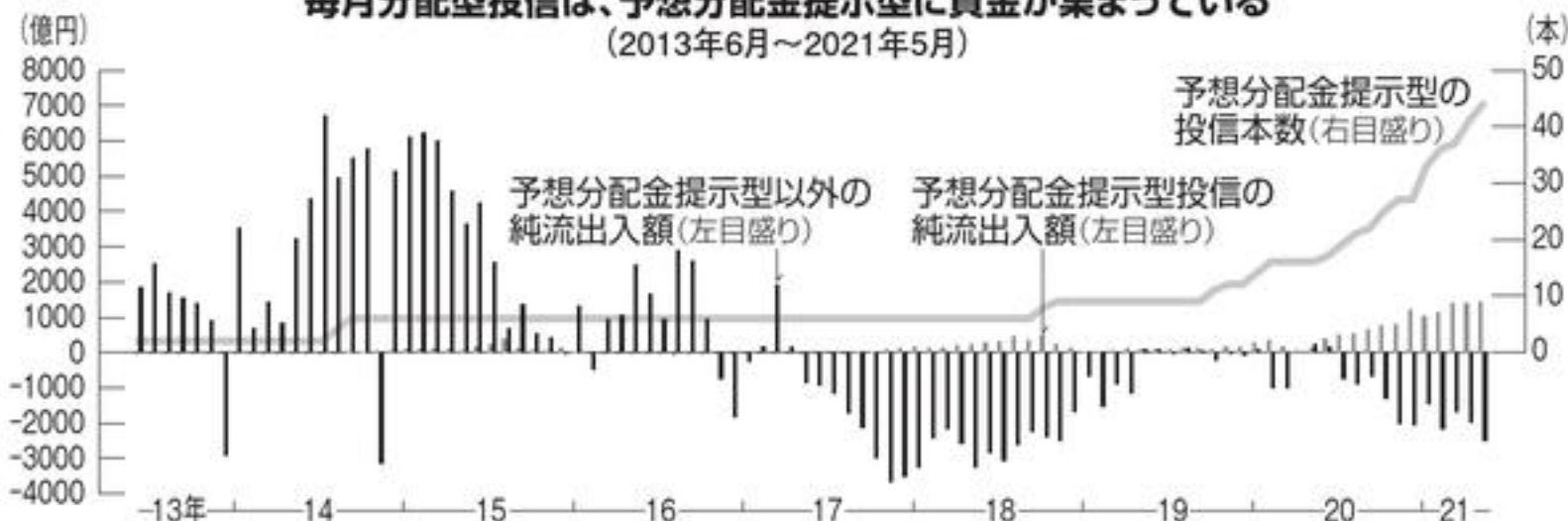
けれど注意が必要です。6月25日のこの欄で紹介したように、予想分配金提示型は、値動きが比較的大きい外国株式や情報テクノロジー（IT）株で運用する投信がほとんど。基準価額の変動が大きくなりがちです。

以前の毎月分配型ブーム

は、世界各地に分散投資するものや、配当利回りの高い証券で運用するものが主流でした。それらは、定期的におこづかいを受け取る目的に比較的適しています。

予想分配金提示型投信の場合、決算が毎月あるのは、値上がり益を確保する頻度を多くするためと考えた方が良さそうです。運用が悪ければ分配金は出ません。安定的な分配金をあてにしていると、基準価額の低迷時に、慌てることになるかもしれませんよ。

毎月分配型投信は、予想分配金提示型に資金が集まっている
(2013年6月～2021年5月)



日本で販売されている株式オープン投信のうち、毎月決算を行う投信について、設定額から解約・償還額を差し引いた純流入額を集計。銘柄名に「予想分配金提示型」または「分配条件提示型」と表示されている投信の合計と、それ以外の投信の合計を月ごとに比較した。右軸は、毎月決算型かつ予想分配金提示型の投信本数。2021年5月末時点